

平成 29 度 第 2 回狭山市文化財保護審議会 会議録

開催日時 平成 29 年 10 月 31 日（火）  
午後 2 時 00 分から午後 4 時 00 分まで

開催場所 教育委員会室

出席者 高橋委員長、林副委員長、権田委員、橋本委員、日吉委員、宮瀧委員、名雲委員、川田委員、樋口委員

欠席者 岩本委員

事務局 滝嶋生涯学習部長、田中社会教育課長、吉田主幹、石塚主査

傍聴者数 1 名

議 題

1 平成 30 年度事業予定（案）について

資料に基づき事務局より説明を行う。次のとおり質疑等があったが、資料のとおり承認される。

質 疑

委 員 狭山市民俗芸能祭囃子連合会の入曾囃子連は解散したのか。

事務局 解散したというわけではなく、活動を休止しているとのことである。今後、活動を再開する可能性もある。野々宮神社の祭礼などでは、他の保存会の応援を得て、奉納、上演を行っていると聞いている。

委 員 了解した。

委 員 博物館収蔵資料のデータベースは今までどのような形式で作成されたのか。また、作成作業はどのような体制で行われたのか。

事務局 紙ベースで作成したカードを電算化したもので、古いデータベースソフトで作成されたものである。今後は、現状に即したソフトで再構築し、検索等、市民の生涯学習に資するよう整備する必要がある。また、作業については職員が行っている。

委 員 予算の関係もあるが、職員だけで作業を進めるのは無理がある。委託料等の予算化も含めて迅速に作業を進めてしてほしい。

事務局 了解した。

委 員 新たに博物館に寄贈された資料は、年間で何点あるのか。

事務局 すでに収蔵されている資料と同じものが多いので受け入れを断ることもあるが、年間で 30 点前後受けている。

委 員 断るものには、どういったものがあるか。

事務局 農具が占める比率が高い。

- 委員 寄贈資料の中から、斜子織の新しい資料は見つかっていないのか。
- 事務局 見つかっていない。現在収蔵されている5点のみである。
- 委員 引き取る引き取らないを決める場合の基準は、どのように決めているのか。今後農機具等の民俗資料のみならず、昭和の資料である古い家電なども歴史的価値が認められるようになれば収蔵対象となってくる可能性があるが、そういったものを受け入れる場合にもきちんと基準を決めていく必要があるのではないかと。
- 事務局 了解した。
- 委員 受け入れを断ることも多いということであるが、受け入れたうえで学校の空き教室を利用して展示室を作るなどの工夫も必要ではないのか。近い学校などは年に1回程度は博物館に引率して見学に行くようだが、博物館に行かなくても身近なところで民具などが見られる環境づくりも試みてほしい。
- 委員 これらの問題も含めて、大きな話になるかもしれないが、狭山市の伝統文化をどのように保存継承していくかといった原点に立ち戻って、教育委員会として、あるいは狭山市として長期的な計画を立てる時期になっているのではないだろうか。
- 事務局 個々の案件も含めて検討していきたい。

## 議 題

### 2 指定文化財修復計画（案）について

資料に基づき事務局より説明を行う。次のとおり質疑等があったが、資料のとおり承認される。

#### 質 疑

- 委員 堀兼神社隨身門と二神像であるが、詳細な修復計画を立案する過程で、一度実物を見る機会を作ってほしい。
- 事務局 次回の審議会で調整したい。
- 委員 平成8年の修復は構造的なものか、塗り替えだけなのか。
- 事務局 塗り替えだけである。二神像については、時を置かずに塗装にひび割れが生じたため、平成9年度に再度行っている。
- 委員 塗装が剥げた原因はなにか。また、今後の塗り替えについて、何か案はあるのか。
- 事務局 下地処理の不足か、塗料が馴染まなかったのか、原因については不明である。平成9年度の作業については記録があり、かなり丁寧な仕事が行われている。今後の案であるが、防虫処理をしたうえで白木に戻す、あるいは疑似漆（カシュー塗り）などを考えている。
- 委員 作業が終了した時点での報告だけではなく、文化財はこうして守られるといった啓発も含めて、現地での説明会の実施や、作業過程についてホームページ等で発信していくことも考えてもらいたい。
- 委員長 現在修復過程を見せるということが各地で行われ、普段見られない部分が見られ

るといった話題を提供するうえで非常に効果があるとされている。事務局で検討してぜひ実施してほしい。

事務局 了解した。

委員 城山砦跡整備案について、木を伐採した場合、土塁表層の崩落が問題となると思われるが、嵐山町の杉山城跡の例を見ると土塁等を覆っていた竹林を伐採した後もほとんど崩落が見られない。城跡保全の先進例として工法等参考にしてほしい。

事務局 植生マット、植生土嚢等の使用により崩落はある程度防止することができると思われる。杉山城については問い合わせのうえ、参考としたい。

委員 今宿遺跡復元住居の修復について、昭和45年当時に比べて住居の復元研究が進んでいるとのことであるが、事務局ではどのような復元案を想定しているのか。

事務局 現在の復元住居の原案は原始入母屋造りを採用しているが、竪穴の平面形が方形であるため、屋根の下部分が寄棟にできないため、上部の切妻部分を大きくしている。現在の研究では、群馬県渋川市の火災住居の発掘調査事例等から寄棟の土葺屋根が想定されている。ただし、この案では屋根が低くなるため、公園内に立ち入ったものが登りやすくなり、崩落事故の危険性がある。専門業者との協議し、良い案を提示したい。また、周辺住民にとって景観として馴染みがあるものになっていると考えられるため、今後意見聴取していく必要もある。

## 議 題

### 3 その他報告事項

資料に基づき、事務局から報告を行う。次のとおり質疑があった。

#### 質 疑

委員 文化財講演会、文化財展の会場はどこか。

事務局 いずれも柏原公民館を予定している。

委員長 次回の博物館の企画展であるが、「運ぶ」というキーワードから多方向への展開を狙ったのは良いと思う。楽しみにしている。

※会議の最後に、追加資料である「斜子織」資料と新刊の埋蔵文化財報告書『稻荷上遺跡第6次調査報告書』について、概要説明を行った。